

2021年2月10日

関係者各位

一般社団法人 建築・住宅国際機構 (IIBH)

ISO/TC98 「構造物の設計の基本」 第3回シンポジウム (ご案内)

- 新 JIS 規格の意義と活用 -

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ISO (国際標準化機構)で制定された ISO 規格が、国内の規準をはじめ建設業界にも影響を及ぼしています。更に近年では、ISO 規格が JIS 化されるなど直接的な利用が進んでいます。

建築・住宅国際機構 (IIBH) は、建築・住宅関連の ISO 規格の国内審議団体として 1991 年より活動を始め、現在に至っております。今回は、ISO/TC98 技術委員会「構造物の設計の基本」の活動をご紹介しますとともに、最近 JIS 化された ISO 規格の技術的内容、及び国内規準改訂の動向との関わりなどについての議論の場を提供する為、シンポジウムを開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。

尚、今回は新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインによる開催となりました。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、別紙プログラムをご覧の上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

- 日時 : 2021年3月15日(月) 14:00 ~ 17:30 (Zoom入室開始13:45予定)
場所 : Zoom ウェビナーによるオンラインセミナー (要事前参加申込)
主催 : 一般社団法人 建築・住宅国際機構 (IIBH)
開催要領 : 別紙「プログラム」をご覧ください。
定員 : 200名 (参加費無料)
申込方法 : ・ 下記 URL をクリックし、申込 Web フォームへアクセス
<https://form.run/@isotc--1612759479>
・ お申込み受け付け後、当シンポジウム zoom 接続用 URL をプレゼンテーション資料と共に、3月11日にEメールにて送付致します。
・ お預かりした個人情報は、本シンポジウムの受付、運営及び当機構の講演会情報提供のために使用し、個人情報保護法に基づき適正に管理致します。
- 申込期間 : 2021年2月10日(水) ~ 2021年3月10日(水)
C P D : 申請中
注意事項 : ・ 本シンポジウムへ参加ご希望の方は、各自参加申し込みをして下さい。
・ 該当する JIS (JIS A 3305 及び A 3306) は、一財) 日本規格協会のホームページからお求めいただけます。

以上

開催要領（プログラム）： ISO/TC98（構造物の設計の基本）第3回シンポジウム
 - 新JIS規格の意義と活用 -

時 間	内 容
14:00 - 14:10	<p>開会挨拶及びISOにおける国際標準化活動のご紹介 1991年から現在までのISO国内審議団体としての主な活動を紹介する。</p> <p>一般社団法人) 建築・住宅国際機構事務局長 大堀 昌美</p>
14:10 - 14:40	<p>ISO規格のJIS化の背景 - 技術委員会の役割 ISO/TC98は建設工学分野において合理的な設計体系確立のための重要な規格を数多く開発し歴史的に欧州標準化委員会(CEN)や各国の設計規準に多大な影響を与えてきた。この程、ISO/TC98が作成したISO規格が日本のJIS規格として認証された。ここでは、国内技術委員会としてJIS化の我が国の設計規準への影響ならびに今後の設計法開発の方向性について報告する。</p> <p>東京大学名誉教授 ISO/TC98国内分科会主査 高田 毅士</p>
14:40 - 15:10	<p>「ISO/TC98/SC2/WG13 構造物の免震設計に関する一般原則」 免震構造は日本のみならず世界中で普及が進んでいるものの、設計方法や目標とする構造性能などは、各国で異なっており、統一された国際規準の作成が求められている。2018年11月にチェコ・プラハにおいて開催されたISO/TC98会議において、免震構造設計のISO規格の作成を日本側が提案し、WGの発足が承認された。その後、WGにおいて規格案についての活発な意見交換を行っている。ここでは、現時点における規格案の内容について紹介する。</p> <p>豊橋技術科学大学建築・都市システム学系教授 齊藤 大樹</p>
休憩 15:10 - 15:20	
15:20 - 15:50	<p>「JIS A3305:2020 建築・土木構造物の信頼性に関する設計の一般原則」の発刊にあたり JIS A3305:2020は、建築・土木構造物の構造設計の基本的な考え方を示すパイプとされるISO2394:2015を基に作成された規格である。ISO2394は、海外で設計の基本として広く参照されていることから、これをJISとして制定しその内容を広く周知することは、我が国の事業者及び技術者の海外展開に役立つと共に、我国の構造設計の在り方を再考するための重要な動機付けともなる。ここでは、その制定の経緯と内容を簡単に紹介する。</p> <p>名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻教授 森 保宏</p>
15:50 - 16:20	<p>「JIS A3306:2020 建築構造物の基本 - 構造物への地震作用」の発刊にあたり ISO 3010「構造物の設計の基本 - 構造物への地震作用」が日本の実情に合わせ修正されたのがJIS A3306である。建築物を含む構造物の耐震設計における地震作用を評価する一般原則として、本文に耐震設計の基本と地震作用の評価の原則、等価静的・動的解析による地震作用の評価、非線形静的解析などが示され、附属書に具体的な解析方法や各種係数の考え方が示されており、耐震規定の導入や既存規定の修正に有益である。本規格について背景を含めた説明と国際的な標準化についても考える。</p> <p>北海道大学名誉教授 石山 祐二</p>
休憩 16:20 - 16:30	
16:30 - 17:25	<p>ISO規格のJIS化の意義に関するパネル討論 グローバル化が進む中、我が国の建設業界において規格の国際化は極めて重要である。国家規格である日本産業規格(JIS)を海外に輸出するのみならず、海外の規格、例えばISO規格を国内に広めるためにJIS化することも意義がある。本パネルでは、最近JIS化されたISO規格を例にとり、今後の国内での活用方法や課題について討論する。</p> <p>日本規格協会執行役員規格品質管理ユニット長 伊藤 弘 北海道大学大学院工学研究院土木工学部門特任教授 横田 弘 前 掲 高田 毅士</p>
17:25 - 17:30	閉会挨拶